

令和2年度LCA日本フォーラム総会資料

第1号議案	令和元年度活動報告書	・・・・・・・・・・	1
第2号議案	令和元年度収支決算書	・・・・・・・・・・	14
第3号議案	令和2年度活動計画書	・・・・・・・・・・	16
第4号議案	令和2年度収支予算書	・・・・・・・・・・	20
第5号議案	LCA日本フォーラム役員の選任	・・・・・・・・・・	21

参考資料1 令和2年度 専門委員会名簿

参考資料2 LCA日本フォーラム規約

令和2年6月30日

L C A 日 本 フ ォ ー ラ ム
事務局：一般社団法人産業環境管理協会

令和元年度活動報告書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

1. 会議関係活動

1-1. 総会

◇令和元年 6月11日 於 31Builedge 霞が関プラザホール(霞が関)
 平成30年度活動報告書(案)、平成30年度収支決算書(案)、令和元年度活動計画書(案)
 及び令和元年度収支予算書(案)を審議し承認した。

<平成30年度役員(敬称略)>

- | | | |
|---------|-------|--|
| 1. 会長: | 山本 良一 | 東京大学 名誉教授 |
| 2. 副会長: | 稲葉 敦 | 工学院大学 先進工学部 教授 |
| | 足立 芳寛 | 東京工科大学 客員教授 |
| | 古賀 剛志 | 特定非営利活動法人 エコデザイン推進機構 理事 |
| | 飯田 祐二 | 経済産業省 産業技術環境局長 |
| | 寺師 茂樹 | 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会委員長
トヨタ自動車株式会社 取締役・副社長 |
| | 曾谷 保博 | 一般社団法人日本鉄鋼連盟
環境・エネルギー政策委員会 委員長
JFEスチール株式会社 代表取締役 副社長 |
| | 三浦 啓一 | 一般社団法人日本経済団体連合会
環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部 部会長代行
太平洋セメント株式会社 取締役常務執行役員 |
| 3. 監事: | 細川 浩之 | 一般社団法人セメント協会 生産・環境部門 リーダー |
| | 大淵 善道 | キヤノン株式会社 環境統括センター
環境推進部 製品環境推進課長 |

1-2. 運営委員会

1回開催し、総会付議事項を審議、承認した。

◇第1回 令和元 5月24日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席: 委員 19名、事務局 3名

議案:

- 1) 総会付議事項について(審議)
平成30年度活動実績報告書(案)、平成30年度収支決算書(案)、令和元年度活動計画書(案)及び令和元年度収支予算書(案)を審議、承認した。
- 2) JLCA-DB 海外対応 WG 「The Global LCA Data Access(GLAD) Network」への対応
- 3) 研究活動委員会の廃止
- 4) NETs 研究プロジェクトの実施
- 5) 各専門委員会、セミナー、研究会、LCA研修等の活動について(報告)

1-3. LCA/DB委員会

1回開催し、LCA日本フォーラムデータベース活用状況の確認と「平成27年度データベース整備事業」を受けての継続作業について報告、検討した。

◇第1回 平成31年 4月26日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

- 出席：委員 11名、オブザーバー 2名、事務局 2名
議案：
・平成30年度データベース整備事業(継続)について(報告)
・国際LCA データベースネットワーク活動状況とJLCA-DBの対応
・平成29年度JLCA データベース利用・更新実績について

1-4. 運営-DB 合同委員会(臨時)

臨時で開催し、下記事案について審議、承認した。

◇第1回 令和元 11月1日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 11名、オブザーバー 2名、事務局 2名

議案：

- 1) 会長代行について
- 2) 事務局体制について
- 3) GLAD へのデータベース試行搭載について
- 4) 新規研究会設置について
 - (ア) 削減貢献研究会設置案
 - (イ) プラスチックのリサイクルを考える研究会設置案

1-5. 情報企画委員会

2回開催し、セミナー開催、ニュースレター発行計画及び情報発信等の普及活動について検討した。

◇第1回 令和元年 7月22日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 5名、事務局 4名

議案：

- ・令和元年度セミナー開催計画
- ・令和元年度ニュースレター発行計画
- ・情報発信、普及活動について

◇第2回 令和2年 3月27日 於 産業環境管理協会 会議室 および ウェブ

出席：委員 9名、事務局 1名

議案：

- ・令和元年度ニュースレター実績報告
- ・令和元年度ホームページ更新作業進捗報告
- ・令和2年度セミナー開催計画
- ・情報発信、普及活動について

1-6. LCA日本フォーラム表彰選考委員会

「令和元年度 第16回LCA日本フォーラム表彰」に関する各賞の最終選考を行った。

◇令和2年 1月8日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 8名、オブザーバー 3名、事務局 1名

議題：

- ・表彰選考WGによる事前審査結果について審議
- ・第16回LCA日本フォーラム表彰の最終選考決定について

1-7. LCA日本フォーラム表彰選考ワーキンググループ

2回開催し、「令和元年第16回LCA日本フォーラム表彰」に関する募集要項を検討し、応募申請内容の事前審査を行い、その結果をLCA日本フォーラム表彰選考委員会に提出した。

◇第1回 令和元年 8月1日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

出席：委員 6名、事務局 2名

議案：・平成30年度第15回LCA日本フォーラム表彰の総括(報告)

・令和元年度第16回LCA日本フォーラム表彰の概要(検討)

◇第2回 令和元年12月21日 於 産業環境管理協会 会議室

出席：委員 7名、事務局 1名

議案：

・令和元年度第16回LCA日本フォーラム表彰の一次審査について

◇事前審査 委員 7名

2. JLCAデータベース管理活動

2-1. データベース運用実績

ログイン実績		2,381件 (前年 2,246件)
ページ閲覧実績	工業会データ	2,514件 (前年 2,966件)
	連結データ	538件 (前年 738件)

2-2. データ新規追加・更新状況

■2019年度1版 (2019/4/1-2019/6/30)

◆セメント協会のインベントリデータを3件更新

- 1 フライアッシュセメントB種製造
- 2 ポルトランドセメント製造
- 3 高炉セメントB種製造

■2019年度3版(2019/11/26-2020/3/31)

◆電子情報技術産業協会のインベントリデータを9件更新

- 1 SMD インダクタ_10×10
- 2 SMD インダクタ_12.5×12.5
- 3 角形チップ固定抵抗器_0402
- 4 積層インダクタ_0402
- 5 積層セラミックコンデンサ_0402
- 6 積層誘電体フィルタ_0402
- 7 積層誘電体フィルタ_0603
- 8 薄膜角形チップ固定抵抗器_0603
- 9 薄膜角形チップ固定抵抗器_3216

2-3. 「データベース整備事業」継続

LCA日本フォーラムでは、「平成27年度データベース整備事業」が実施され、工業会データとIDEAとの上流連結作業を行った「LCA連結データ」を整備し、平成28年度に公開(会員限定)した。「LCA連結データ」は、工業会等から提供されている「インベントリ分析用データベース(工業会データ)」に、IDEA Ver.2.(H29.10)を連結計上した、プロセス合算型(Cradle-to-Gate)データとなっている。工業会データを見直し「LCA連結データ」の公開を行う意思のある工業会に向け、連結作業を円滑に進めるための支援事業を継続実施した。

■LCA連結データ公開(2020年7月) 「Cradle to Gate」のインベントリデータ (250品目)

1. 日本化学工業協会
2. 日本自動車部品工業会
3. 日本ガス協会
4. 情報通信ネットワーク産業協会
5. 日本アルミニウム協会
6. 日本建設業連合会(H30年度更新)
7. 日本電機工業会
8. 日本製紙連合会
9. 日本産業・医療ガス協会
10. プラスチック循環利用協会
11. 日本ゴム工業会
12. エンプラ技術連合会
13. 日本ソーダ工業会
14. 合成樹脂工業会
15. 全国段ボール工業組合連合会
16. カーボンブラック協会
17. 塩ビ工業・環境協会
18. 電子情報技術産業協会(H30年度一部修正)
19. 日本電線工業(H30年度新規公開)
20. 日本壁装協会(H30年度新規公開)
21. 炭素繊維協会(H30年度新規公開)

2-4. 「JLCA データベースの「The Global LCA Data Access(GLAD) Network」への試行搭載」

UNEP 主導の「LCA-DB ネットワーク構想」(The Global LCA Data Access(GLAD) Network)へのLCA日本フォーラムの対応として、セメント協会のポルトランドセメント製造および高炉セメントB種製造の2件のメタデータをGLADに試行搭載した。

URL: <https://www.globallcadataaccess.org/search?query=&validFrom=>

これに伴い、GLADで紹介されるデータセットからのリンク先として、JLCAのホームページの英語版のサイトにデータベースへのアクセス画面を設置した。データベースへのアクセスには、JLCAのメンバーになる必要があること、メンバーになる特典と料金設定のページを設置した。

3. 研究会・研修活動

3-1. 「LIME3活用検討」研究会

◇「LIME3活用検討」WGメンバー

委員長 稲葉 敦(工学院大学 先進工学部 教授)

副委員長 伊坪徳宏(東京都市大学 環境学部 教授)

委員 本下晶晴(国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員)
WGメンバー 株式会社 資生堂 積水化学工業株式会社
TOTO株式会社 太平洋セメント株式会社
サンメッセ株式会社 TCO2株式会社
日産自動車株式会社

◇「LIME3活用検討」研究会 実施内容

環境影響評価手法 LIME3の利用方法の解説、指導、事例研究の解釈と考察を進めた。

第17回 令和元年 5月 13日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

◇研究会終了に伴い、公開報告会(セミナー)を開催した。

開催日時：令和元年 6月 11日(火) 14:00-17:00

開催場所：31Builedge 霞が関プラザホール(総会記念セミナー)

主催：LCA 日本フォーラム

参加者：約120名

【内容】

開会挨拶

一般社団法人産業環境管理協会 専務理事 黒岩 進

基調講演「環境影響の経済評価の最前線からみた LCA や産業界への期待」

京都大学 農学研究科 教授 栗山 浩一

「影響評価手法 LIME3 の特徴と活用」

東京都市大学 環境学部 環境経営システム学科 教授 伊坪 徳宏

「LIME3における水資源消費の影響評価」

産業技術総合研究所 安全科学研究部門 社会と LCA 研究グループ 主任研究員 本下 晶晴

LIME3の活用に関する企業事例紹介およびパネルディスカッション

「企業事例1 世界各国で製造されるセメントの環境影響評価」

太平洋セメント株式会社 中央研究所 桐野 裕介

「企業事例2 積水化学グループの ESG 経営における LIME3 活用方法の検討

ープラスチック成型加工品評価を事例としてー」

積水化学工業株式会社 ESG 経営推進部 担当部長 三浦 仁美

「企業事例3 ハンドソープの環境影響とポジティブ効果の比較評価」

株式会社資生堂 社会価値創造本部 サステナブル環境室 シニアスペシャリスト 大橋 憲司

「企業事例4 自動車における LIME3での評価」

日産自動車株式会社 EV システム研究所 磯部 眞弓

講演者全員によるパネルディスカッション

モデレーター：工学院大学 環境マネジメント工学研究室 教授 稲葉 敦

3-2. 「SDGs と ICT」研究会

◇「SDGs と ICT」WGメンバー

委員長 松野 泰也(千葉大学大学院工学研究院 都市環境システムコース 教授)

副委員長 並河 治(株式会社日立製作所)

折口 壮志(東日本電信電話株式会社)

◇WGメンバー 株式会社東芝

日本電気株式会社

富士通株式会社	日本電信電話株式会社
株式会社エックス都市研究所	富士ゼロックス株式会社
三菱電機株式会社	株式会社日立製作所
日産自動車株式会社	キヤノン株式会社

◇「SDGs と ICT」研究会 実施内容

SDGs への取組において ICT の効果的な活用と課題点を事例と共に整理し、LCA の活用方法を検討した。

第3回 令和元年 6月 27日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第4回 令和元年 10月 29日 於 NATULUCK 神田北口駅前

3-3. 「LIME3活用検討」研究会パート2

委員長 稲葉 敦(工学院大学 先進工学部 教授)
 副委員長 伊坪徳宏(東京都市大学 環境学部 教授)
 委員 本下晶晴(国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員)
 WG メンバー TOTO株式会社 太平洋セメント株式会社
 TCO2株式会社 住友化学株式会社
 日産自動車株式会社 富士通株式会社
 日軽金アクト株式会社

◇「LIME3活用検討」研究会パート2 実施内容

環境影響評価手法 LIME3 の利用方法の解説、指導、事例研究の解釈と考察を進めた。

第1回 令和元年 7月 22日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第2回 令和元年 10月 7日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター

第3回 令和元年 12月 9日 於 産業環境管理協会 会議室

第4回 令和2年 1月 27日 於 産業環境管理協会 会議室

3-4. 「GHG の削減貢献量算定」研究会

委員長 醍醐 市朗(東京大学大学院工学系研究科 特任准教授)
 委員 稲葉 敦(工学院大学 先進工学部 教授)
 委員 本下晶晴(国立研究開発法人産業技術総合研究所 主任研究員)
 WG メンバー 株式会社荏原製作所 株式会社デンソー
 TDK株式会社 帝人株式会社
 キヤノン株式会社 三菱電機株式会社

◇「GHG の削減貢献量算定」研究会 実施内容

GHG の削減貢献量の算定方法の解説、指導、事例研究の解釈と考察を進めた。

第1回 令和2年 1月 21日 於 産業環境管理協会 会議室

第2回 令和2年 2月 20日 於 産業環境管理協会 会議室

3-5. 「プラスチックのリサイクルを考える」研究会

委員長 中谷 隼(東京大学大学院工学系研究科 講師)
 副委員長 森 史也(みずほ情報総研株式会社 環境エネルギー第2部)
 WG メンバー 花王株式会社 東罐興業株式会社
 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社

太平洋セメント株式会社	積水化学工業株式会社
ユニチカ株式会社	味の素株式会社
日揮グローバル株式会社	JXTGホールディングス株式会社

◇「プラスチックのリサイクルを考える」研究会 実施内容
 プラスチックに係る算定方法の解説、指導、事例研究の解釈と考察を進めた。
 第1回 令和2年 2月 17日 於 産業環境管理協会 会議室

3-6. ネガティブエミッション技術(NETs)研究プロジェクト

WGメンバー	山本 良一	東京大学 名誉教授
	山地 憲治	東京大学/地球環境産業技術研究機構(RITE)
	水谷 広	社会地球化学研究所
	稲葉 敦	工学院大学 先進工学部 環境化学科 教授
	小野 透	日鉄総研株式会社
	磯原 豊司雄	日本製鉄株式会社
	山本 博巳	一般財団法人電力中央研究所
	黒沢 厚志	一般財団法人エネルギー総合工学研究所
	加藤 悦史	一般財団法人エネルギー総合工学研究所
	河尻 耕太郎	国立研究開発法人産業技術総合研究所
	杉山 昌広	東京大学 未来ビジョン研究センター
	桑江 朝比呂	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所
	岸本 文紅	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
	伊藤 昭彦	国立研究開発法人国立環境研究所
	伊坪 徳宏	東京都市大学環境学部環境マネジメント学科教授
	高橋 伸英	信州大学 繊維学部教授
	遠矢 伸一郎	株式会社日立製作所

◇「ネガティブエミッション技術(NETs)研究プロジェクト」実施内容
 ネガティブエミッション技術の整理およびLCA算定のためのガイドライン策定および文献調査
 第1回 令和元年 7月 24日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター
 第2回 令和元年 10月 2日 於 TKP神田駅前ビジネスセンター
 第3回 令和元年 12月 10日 於 産業環境管理協会 会議室

<NETsガイドラインドラフティングチーム>

メンバー	座長	加藤 悦史	一般財団法人エネルギー総合工学研究所
		稲葉 敦	工学院大学 先進工学部 環境化学科 教授
		磯原 豊司雄	日本製鉄株式会社
		小田 潤一郎	地球環境産業技術研究機構(RITE)
		カーコーセリム	東京都市大学
		佐伯 順子	産業環境管理協会

第1回 令和2年 1月 15日 於 産業環境管理協会 会議室
 第2回 令和2年 2月 5日 於 産業環境管理協会 会議室
 第3回 令和2年 3月 26日 於 産業環境管理協会 会議室

3-7. JLCA-LCA研修

LCA研修(入門コース)を3会場にて2回(前期、後期)実施した。

◇東京会場

日時① 令和元年7月12日 参加者：39名
日時② 令和元年11月15日 参加者：17名
運営・講師：産業環境管理協会(LCA日本フォーラム事務局)
場所：TKP 神田駅前ビジネスセンター

◇名古屋会場

日時① 令和元年6月6日 参加者：8名
日時② 令和元年10月10日 参加者：2名
運営・講師：株式会社フルハシ環境総合研究所
場所：名古屋都市センター(名古屋市)

◇大阪会場

日時① 令和元年6月21日 参加者：6名
日時② 令和元年10月25日 参加者：6名
運営・講師：特定非営利活動法人資源リサイクルシステムセンター
場所：おおきに南船場ビル(大阪市)

4. 普及・情報交流活動

4-1. LCA日本フォーラムセミナー開催

LCA日本フォーラムが主催のセミナーを5回企画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2件は中止となり、結果3回開催した。また、2件のイベントに協力した。

① 平成30年度LCA日本フォーラム総会記念セミナー

日時：令和元年 6月 11日 (火) 14:00-17:00

場所：31Builedge 霞が関プラザホール(総会記念セミナー)

参加者：約120名

内容：LIME3活用検討研究会終了に伴う成果報告会

開会挨拶

一般社団法人産業環境管理協会 専務理事 黒岩 進

基調講演「環境影響の経済評価の最前線からみた LCA や産業界への期待」

京都大学 農学研究科 教授 栗山 浩一

「影響評価手法 LIME3 の特徴と活用」

東京都市大学 環境学部 環境経営システム学科 教授 伊坪 徳宏

「LIME3における水資源消費の影響評価」

産業技術総合研究所 安全科学研究部門 社会とLCA 研究グループ 主任研究員 本下 晶晴

LIME3の活用に関する企業事例紹介およびパネルディスカッション

「企業事例 1 世界各国で製造されるセメントの環境影響評価」

太平洋セメント株式会社 中央研究所 桐野 裕介

「企業事例 2 積水化学グループの ESG 経営における LIME3 活用方法の検討

ープラスチック成型加工品評価を事例としてー」

積水化学工業株式会社 ESG 経営推進部 担当部長 三浦 仁美

「企業事例 3 ハンドソープの環境影響とポジティブ効果の比較評価」

株式会社資生堂 社会価値創造本部 サステナブル環境室 シニアスペシャリスト 大橋 憲司

「企業事例 4 自動車における LIME3での評価」

日産自動車株式会社 EV システム研究所 磯部 眞弓

講演者全員によるパネルディスカッション

モデレーター：工学院大学 環境マネジメント工学研究室 教授 稲葉 敦

② 2019年度 LCA日本フォーラム秋季セミナー ライフサイクルの側面から取り組む海洋プラスチック問題

日時: 令和元年 11月 18日 (月) 13:00-17:00

場所: 大手町ファーストスクエアカンファレンス Room B

参加: 約90名

内容: 海洋プラスチック問題の政策・研究動向、そしてライフサイクルの側面からの考え方や評価のあり方等

本セミナーについて

東京都市大学 伊坪 徳宏

プラスチックに関する最新の政策動向

経済産業省 仲田 積実

プラスチック循環に関わるLCA 報告書の概要(JaIME)

産業技術総合研究所 田原 聖隆

都市水循環系におけるマイクロプラスチックの挙動

京都大学 田中 周平

海域浮遊マイクロプラスチックの現状と将来予測

九州大学 磯辺 篤彦

物質フローと再生技術から見るプラスチック資源循環

東京大学 中谷 隼

サステナブルなペットボトルに向けた取組み

サントリーホールディングス株式会社 内藤 寛

講演者によるパネルディスカッション

モデレーター: 工学院大学 稲葉 敦

③ 2019年度 LCA日本フォーラム国際動向セミナー グリーンファイナンスをめぐる国際動向と国際規格

日時: 令和2年1月31日 (金) 13:00-16:50

場所: 全日通労働組合 全日通霞が関ビルディング 8階 大会議室B

参加: 約80名

内容: 国内外のグリーンファイナンスに関する最新動向と国際規格の開発状況紹介

<第一部:グリーンファイナンスと日本の対応>

基調講演①:グリーンファイナンスに関する国際動向

高崎経済大学 水口 剛

基調講演②:ESG 金融とこれからの環境経営

日本政策投資銀行 竹ヶ原 啓介

グリーンファイナンスとTCFDに関する日本の政策動向

経済産業省 産業技術環境局 環境経済室 大山 祥平

<第二部:国際規格の動向>

基調講演③:TC323 Circular economy(サーキュラーエコミー)について

東京大学 生産技術研究所 中村 崇

TC322 Sustainable finance(サステナブルファイナンス)の動向

日本規格協会 山崎 朋子

TC207 における環境ファイナンス関連規格開発動向(TC207 / SC4, SC7, WG1)

日本適合性認定協会 牧野 睦子

TC207 における LCA 関連規格開発動向(TC207 / SC1, SC5)

工学院大学 稲葉 敦

④ LCAフォーラム表彰「令和元年度第16回LCA日本フォーラム表彰記念講演」

日時： 令和2年2月27日

場所： イノホール 「Room A」

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

⑤ ネガティブエミッション技術国内シンポジウム」

日時： 令和2年3月13日

場所： 工学院大学アーバンテックホール

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

【共催・後援イベント】

◇第25回日本LCA学会講演会（日本LCA学会設立15周年記念 講演会）

日時： 令和元年7月18日

テーマ： LCA の過去と未来～持続可能な社会の構築に向けて果たすべき役割～

場所： TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター ホール4B

主催： 日本LCA学会

後援： LCA日本フォーラム

参加： 約100名（講演者、関係者含む）

◇講演と討論会「温室効果ガスの削減貢献量」

日時： 令和2年2月13日（木）13:00—17:00

会場： 工学院大学 新宿キャンパス 5階

主催： 日本LCA学会

共催： LCA日本フォーラム、工学院大学

後援： 経済産業省、一般社団法人日本経済団体連合会

参加： 約100名（講演者、関係者含む）

4-2. JLCAニュースレター発行

下記のとおりニュースレターを発行(ホームページ掲載)した。

◇第77号: 令和2年 3月 (特集 第16回LCA日本フォーラム表彰 1)

◇第78号: 令和2年 3月 (特集 第16回LCA日本フォーラム表彰 2)

(5. LCA日本フォーラム表彰参照)

4-3. ホームページ 情報更新、普及活動

◇コンテンツの情報更新

- ・JLCAデータベース: データ新規追加・更新状況
- ・LCA日本フォーラム表彰、セミナー、LCA研修等の募集、開催案内、開催報告
- ・英語版の入会案内およびデータベースへのアクセスページを新設
- ・LIME3活用検討研究会成果報告書の英語版を作成(ホームページで公開予定)
- ・プラスチック循環利用協会の事例集(英語版)を作成(ホームページで公開予定)

◇メール情報配信 21件

LCA、環境効率関連のニュース、フォーラム主催イベント、その他関連情報を、会員に対して発信した。

5. LCA日本フォーラム表彰

LCA、環境効率に係わる優れた活動を表彰する「第16回LCA日本フォーラム表彰」が実施され、「経済産業省産業技術環境局長賞」、「会長賞」、「奨励賞」、「功労賞」を、下記の通り表彰した。

■令和元年度 第16回LCA日本フォーラム表彰

部門	受賞者	活動の名称
経済産業省産業技術環境局長賞		
環境経営	花王株式会社	サプライヤー様といっしょに eco
LCA日本フォーラム会長賞(2件)		
研究・教育・普及	一般社団法人 日本経済団体連合会	「グローバル・バリューチェーンを通じた削減貢献」の取組み - 民間企業による新たな温暖化対策の視点 -
環境経営	株式会社トクヤマ 株式会社トクヤマ・チヨダンプサム	廃石膏ボードの完全リサイクル技術の開発および廃石膏処理事業による環境負荷低減への取組み
LCA日本フォーラム奨励賞(3件)		
研究・教育・普及	日本製鉄株式会社	ライフサイクル全体で考える重要性およびそれに基づく鉄鋼製品の環境への優しさに関する、子どもを含む全世代に向けた普及・啓発活動
環境経営	株式会社 明電舎	電気自動車・再エネ関連事業等を通じたバリューチェーン温室効果ガス排出削減の取組み
環境経営	東芝キャリア株式会社 東芝環境ソリューション株式会社 東レ株式会社	空調機器のサプライチェーン連携による再生プラスチック利用拡大

令和元年度LCA日本フォーラム収支決算

1 一般事業収支		(単位：円)			
	科目	2019年度 予算額	2019年度 決算額	比較増減	
I	収入の部				
1	会費	14,031,000	14,362,000	331,000	@ 100,000 円× 19 工業会Ⅰ = 1,900,000 @ 400,000 円× 2 工業会Ⅱ = 800,000 @ 600,000 円× 1 工業会Ⅲ = 600,000 @ 30,000 円× 18 工業会Ⅳ = 540,000 @ 80,000 円× 4 団体 = 320,000 @ 100,000 円× 1 学術組織 = 100,000 @ 50,000 円× 78 優先企業A = 3,900,000 @ 30,000 円× 1 優先企業B = 30,000 @ 80,000 円× 31 一般企業A = 2,480,000 @ 50,000 円× 16 一般企業B = 800,000 @ 30,000 円× 44 一般企業C = 1,320,000 @ 30,000 円× 39 大学等 = 1,170,000 @ 13,000 円× 25 個人 = 325,000 @ 7,000 円× 11 LCA学会会員 = 77,000
	特別DB利用料				
2	セミナー参加費	50,000	78,000	28,000	2019/11/18 秋季セミナー 50,000 2020/1/31 国際動向セミナー 28,000
3	雑収入	100	163	63	利息等
4	特別収支から移管	1,938,700	1,938,700	0	2.特別収支から移管
当期収入合計(A)		16,019,800	16,378,863	359,063	
II	支出の部				
1	委員会関係費	350,000	286,631	△ 63,369	委員謝金 94,000 委員旅費 5,260 会場費・会議費 187,371
2	研究会活動費	3,000,000	2,658,945	△ 341,055	研究会活動費 ・「LIME3」研究会 392,524 ・「LIME3」研究会パート2 135,845 ・「SDGsとICT」研究会 147,136 ・「GHGの削減貢献」研究会 52,600 ・「プラスチックのリサイクルを考える」研究会 58,100 JLCA-LCA研修事業費 1,872,740
3	システム維持管理費	2,992,340	2,599,065	△ 393,275	データベースサーバー保守・管理費 947,044 新データベース・サーバー移設費 273,340 レンタルサーバー利用費 62,546 ホームページ更新・管理費 377,235 連結データベース事業継続費 938,900
4	セミナーシンポジウム	2,200,000	1,042,363	△ 1,157,637	講師／関係者 謝金・旅費 452,950 会場費 535,491 印刷費 50,196 会議費 3,726
5	LCA表彰	2,000,000	1,450,917	△ 549,083	委員会、審査関係費 296,055 表彰式、講演会関係費 1,154,862
6	広報誌発行費	500,000	378,322	△ 121,678	原稿料 113,000 翻訳費 265,322
7	国際対応活動費	2,200,000	1,200,000	△ 1,000,000	海外調査 0 TC207協力金(2019年度分) 30,000 エコバランス国際会議 協賛金 500,000 EcoDesign2019 100,000 GLAD対応費 570,000
8	日本LCA学会会費	100,000	100,000	0	日本LCA学会(2019年分) 100,000
9	特別事業費	1,500,000	956,964	△ 543,036	NETs事業 956,964
10	事務局人件費	2,900,000	2,100,000	△ 800,000	事業支出額の約20% 2,100,000
11	事務局経費	635,000	697,613	62,613	事務局人件費の約15% 315,000 実費経費 382,613
当期支出合計(B)		18,377,340	13,470,820	△ 4,906,520	
当期収支差額(A-B)		△ 2,357,540	2,908,043	5,265,583	
前年度繰越金(C)		2,649,366	2,649,366	0	
次期繰越収支差額(A-B+C)		291,826	5,557,409	5,265,583	

2 特別収支(システム更新積立金)		(単位：円)			
	科目	2019年度 予算額	2019年度 決算額	比較増減	
I	収入の部				
	当期収入合計(D)	0	0	0	
II	支出の部				
1	一般事業収支へ移管	1,938,700	1,938,700		1.一般事業収支へ移管
	当期支出合計(E)	1,938,700	1,938,700	0	
当期収支差額(D-E)		△ 1,938,700	△ 1,938,700	0	
前年度繰越金(F)		9,768,700	9,768,700	0	
次期繰越収支差額(D-E+F)		7,830,000	7,830,000	0	

会計監査確認書

2019年度LCA日本フォーラム会計書類を監査し、その正当なることを確認致しました。

2020年5月25日

監事

東京都中央区日本橋本町1丁目9番4号
一般社団法人セメント協会
生産・環境部門
リーダー

細川 浩之



2020年5月15日

監事

東京都大田区下丸子3丁目30番2号
キャノン株式会社
環境統括センター 環境推進部
製品環境推進課長

大淵 善道



令和2年度活動計画書 (2020年4月1日～2021年3月31日)

環境マネジメントに関する国際規格化動向、欧州委員会における環境フットプリントやGHGプロトコルにおけるScope3の進展、あるいは、自治体・工業会におけるGHG排出量の削減貢献量の取り組みなど、サプライチェーン全体を通じたLCAの活用が国内外に広がっている。

こうした中、LCA日本フォーラムは、平成10年からの第1期LCAプロジェクト以来の成果を広く我が国産業界に一元的に公開し続け、LCAの発展に欠くことのできないLCAデータベース(JLCA-DB)の利便性向上を図り、今後の在り方について広く議論を行い、さらなる発展を期すこととする。

その他、今年度も下記を柱とした活動を行う。

- ① LCAデータベース(JLCA-DB)運営管理及び積極的活用の促進
- ② LCA日本フォーラム表彰の実施
- ③ 情報発信活動としてセミナーの開催とニュースレターの発行
- ④ LCAと環境効率の研究会活動とLCA研修事業の実施
- ⑤ 国際動向の積極的な調査

1. 事業内容

1-1. JLCA-DB活用促進及び運営管理に係わる活動の実施

- ① 平成27年度に実施した「データベース整備事業」の成果である「LCA連結データ」について、引続き問合せ対応等のフォローアップを行うほか、今後一層の活用促進のため、連結データの公開を行う意思のある工業会を対象に、連結作業を円滑に進めるための支援事業を実施する。(支援業務の委託先:産業技術総合研究所および産業環境管理協会)
- ② 国際的なデータベースネットワークの動向について、経済産業省事業および産業技術総合研究所のデータベース(IDEA)事業への協力と情報収集を継続し、フォーラムとしての対応を検討する。特に、The Global LCA Data Access(GLAD) Network に対するフォーラムの対応について、DB 海外動向 WG で検討する。

1-2. LCA表彰事業活動の実施

- ① 日本国内のLCAと環境効率に係わる優れた活動および製品・サービスを表彰する。
「第16回LCA日本フォーラム表彰」 経済産業省産業技術環境局長賞
LCA日本フォーラム会長賞
LCA日本フォーラム奨励賞
功労賞
- ② 表彰式：受賞者の表彰式と表彰記念講演会を実施する。(2021年2月)

1-3. 情報発信活動の実施

- ① LCAと環境効率に関連したセミナーを6回程度開催する。
 - 総会併設セミナー：ネガティブエミッション技術国内シンポジウム(2020年6月30日)
 - フォーラム主催セミナー：CEとシェアリング(案)(2020年8月)
 - LCA日本フォーラム25周年記念シンポジウム(2020年10月頃)
 - 日本LCA学会共催セミナー：新技術の評価(案)(2020年12月)
 - フォーラム主催セミナー：国際動向に関するセミナー(2021年1月)
 - LCA表彰記念セミナー：受賞者より講演(2021年2月)
- ② LCAと環境効率に関連した情報掲載の「フォーラムニュース」を2～3刊程度発刊する。
- ③ ホームページのコンテンツの充実を図る。
 - LIME3活用検討研究会成果報告書(英語版)掲載
 - プラスチック循環利用協会事例集(英語版)掲載
 - その他、LCA評価事例の掲載
- ④ メールマガジン等により、LCAと環境効率に関連する情報を提供する。

1-4. 研究会活動の実施

- ① 令和元年度に引続き、下記の研究会活動の継続を実施する。
 - 「ICTとSDGs」研究会
 - 「LIME3活用検討」研究会パート2
 - 「GHG削減貢献量算定」研究会
 - 「プラスチックのリサイクルを考える」研究会

1-5. LCA研修の実施

- ① LCA実施者の裾野を広げるべく、データベースの継続運営、会員サービスへの強化を含めたフォーラム全体の活性化を目的とし、フォーラム主催のLCA研修(入門コース)を実施する。3つの地域会場にて各1~2回程度開催する。
 - ・ 東京会場(9月、1月)
 - ・ 名古屋会場(10月)
 - ・ 大阪会場(11月)
- ② 教材の更新および改善を語る。昨年度まで教材としていたLCA概論は、2014年以降改訂がされておらず、事例等も古くなってきていることから、改訂頻度の高い「演習で学ぶLCA」の採用で、時宜にあった事例を用いた研修を目指す。また、インベントリ分析および環境影響評価をわかりやすくデモンストレーションできるツールを開発し、実習をより充実させる。

1-6. NETs 研究プロジェクトの継続

国内における NETs 推進として、各技術の専門家による検討の場を設け各技術の俯瞰・課題だしを行い、会員からのフィードバックを受ける。昨年度策定した NETs の LCA 算定ガイドラインおよび事例集を更新し、国内・外に発信し、日本における NETs の展開および将来の NETs 戦略についての意思決定に資することを目的とする。検討会を2回程度開催し、ホームページなどで発信する。

1-7. 自治体の気候行動計画立案支援プロジェクト(仮称)の設置

現在、国内外で自治体、国家による気候非常事態宣言(Climate Emergency Declaration = CED)を行われ、カーボンニュートラル(あるいは二酸化炭素排出実質ゼロ)を目指した気候行動計画の立案、実施が進められている。ところが、これら自治体のほとんどがカーボンフットプリントの定量的把握ができていないとの指摘もある。そこで、2050年あるいは2030年のカーボンニュートラルを目指して気候行動計画を立案する自治体に対して、カーボンニュートラルなどの用語およびカーボンフットプリントの計算の仕方を明確にすることを目的とした支援を行う。

これを達成するために、

1. LCA 日本フォーラムのなかに新たなワーキンググループを設置し、自治体の気候行動計画の立案・実施を支援する。
2. 自治体の職員に対して LCA の基本的知識の研修、海外における気候行動計画についての情報を提供するセミナー等を開催する。

1-8. 国際動向調査と国際会議等への協力

- ① 国際動向調査としての国際会議へ専門家を派遣する。
- ② 国際会議、学術会議等への協力(TC207、日本LCA学会等)

2. 年間スケジュール予定

2-1. 総会/委員会

- ① 通常総会 年1回 (6月30日)
- ② 運営委員会 年1回程度 (6月18日)
- ③ LCA/DB委員会 年2回程度 (5月18日、10月頃)
- ④ 情報企画委員会 年2回程度 (7月、3月)
- ⑤ 表彰委員会 年1回程度 (1月)
- ⑥ 表彰選考ワーキンググループ 年2回程度(7月、12月)

2-2. 情報発信

- ① LCA日本フォーラム表彰 応募期間(8月~11月) 表彰式(2月)
- ② セミナー開催 年6回程度 (6月、8月、10月、12月、1月、2月)
- ③ ニュースレター発刊 年2~3刊程度
- ④ ホームページ更新(ニュース配信随時、コンテンツ改訂等)

令和2年度LCA日本フォーラム収支予算書

1 一般事業収支					(単位:円)
	科目	令和元年度 予算額	令和元年度 決算額	令和2年度 予算額	
I	収入の部				
1	会費	14,031,000	14,362,000	14,362,000	@ 100,000 円× 19 工業会 I = 1,900,000 @ 400,000 円× 2 工業会 II = 800,000 @ 600,000 円× 1 工業会 II = 600,000 @ 30,000 円× 18 工業会 III = 540,000 @ 80,000 円× 4 団体 = 320,000 @ 100,000 円× 1 学術組織 = 100,000 @ 50,000 円× 78 優先企業A = 3,900,000 @ 30,000 円× 1 優先企業B = 30,000 @ 80,000 円× 31 一般企業A = 2,480,000 @ 50,000 円× 16 一般企業B = 800,000 @ 30,000 円× 44 一般企業C = 1,320,000 @ 30,000 円× 39 大学等 = 1,170,000 @ 13,000 円× 25 個人 = 325,000 @ 7,000 円× 11 LCA学会会員 = 77,000
	特別DB利用料				
2	セミナー参加費	50,000	78,000	50,000	
3	雑収入	100	163	100	利息 100
4	特別収支から移管	1,938,700	1,938,700	0	2.特別収支から移管 1,938,700
当期収入合計(A)		16,019,800	16,378,863	14,412,100	
II	支出の部				
1	委員会関係費	350,000	286,631	400,000	委員謝金 150,000 委員旅費 100,000 会場費 100,000 会議費 50,000
2	研究会活動費	3,000,000	2,658,945	3,500,000	研究会活動費 (研究会4件程度) 1,000,000 LCA研修事業 2,500,000
3	システム維持管理費	2,992,340	2,599,065	2,712,340	データベースサーバー保守・管理費 947,440 新データベース・サーバー移設費 20,000 レンタルサーバー利用費 200,000 ホームページ更新・管理費 600,000 連結データベース事業継続費 944,900
4	セミナー・シンポジウム	2,200,000	1,042,363	2,900,000	講師謝金・旅費 800,000 会場費 1,300,000 印刷費 300,000 会議費 200,000 オンラインシステム構築費 300,000
5	LCA表彰費	2,000,000	1,450,917	2,000,000	委員会、審査関係費 500,000 表彰式、講演会関係費 1,500,000
6	広報誌発行費	500,000	378,322	300,000	原稿料・原稿作成費 200,000 翻訳費 100,000
7	国際対応活動費	2,200,000	1,200,000	1,130,000	海外調査 500,000 TC207協力金 30,000 エコバランス国際会議協力金 500,000 EcoDesign2019 100,000
8	日本LCA学会会費	100,000	100,000	100,000	日本LCA学会 100,000
9	特別事業費	1,500,000	956,964	1,600,000	NETs事業 300,000 自治体の気候行動計画立案支援 1,300,000
10	事務局人件費	2,900,000	2,100,000	4,300,000	事業支出額の約30% 4,300,000
11	事務局経費	635,000	697,613	845,000	事務局人件費の約15% 645,000 実費経費 200,000
当期支出合計(B)		18,377,340	13,470,820	19,787,340	
当期収支差額 (A-B)		△ 2,357,540	2,908,043	△ 5,375,240	
前年度繰越金 (C)		2,649,366	2,649,366	5,557,409	
次期繰越収支差額 (A-B+C)		291,826	5,557,409	182,169	

2 特別収支 (システム更新積立金)					(単位:円)
	科目	令和元年度 予算額	令和元年度 決算額	令和2年度 予算額	
I	収入の部				
	当期収入合計(D)	0	0	0	
II	支出の部				
1	一般事業収支へ移管	1,938,700	1,938,700	0	
当期支出合計(E)		1,938,700	1,938,700	0	
当期収支差額 (D-E)		△ 1,938,700	△ 1,938,700	0	
前年度繰越金 (F)		9,768,700	9,768,700	7,830,000	
次期繰越収支差額 (D-E+F)		7,830,000	7,830,000	7,830,000	

令和2年度LCA日本フォーラム役員

(敬称略)

会長：

やまもと りょういち
山本 良一 東京大学 名誉教授

副会長：

いなば あつし
稲葉 敦 一般社団法人日本LCA推進機構 理事長

あだち よしひろ
足立 芳寛 東京工科大学客員教授

こが たけし
古賀 剛志 特定非営利活動法人エコデザイン推進機構 理事

いいだ ゆうじ
飯田 祐二 経済産業省 産業技術環境局長

旧(2020年5月31日まで)

てらし しげき
寺師 茂樹 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会 委員長
トヨタ自動車株式会社 取締役・執行役員

新(2020年6月1日より)

おくち ひろあき
奥地 弘章 一般社団法人日本自動車工業会 環境委員会 委員長
トヨタ自動車株式会社 執行役員・先進技術開発カンパニー President

旧(2020年6月15日まで)

おがわ ひろゆき
小川 博之 一般社団法人日本鉄鋼連盟 環境・エネルギー政策委員会 委員長
JFEスチール株式会社 代表取締役 副社長

新(2020年6月16日より)

みぎた あきお
右田 彰雄 一般社団法人日本鉄鋼連盟 環境・エネルギー政策委員会 委員長
日本製鉄株式会社 代表取締役 副社長

旧(2020年3月31日まで)

みうら けいいち
三浦 啓一 一般社団法人日本経済団体連合会

環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会 部会長代行
太平洋セメント株式会社 取締役専務執行役員

新(2020年4月1日より)

おかむら たかよし
岡村 隆吉 一般社団法人日本経済団体連合会

環境安全委員会 廃棄物・リサイクル部会 部会長代行
太平洋セメント株式会社 常務執行役員

監事:

ほそかわ ひろゆき
細川 浩之 一般社団法人セメント協会 生産・環境部門 リーダー

おおぶち よしみち
大淵 善道 キヤノン株式会社 環境統括センター環境推進部 製品環境推進課長

令和2年度LCA日本フォーラム運営委員会 名簿

		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	稲葉 敦	一般社団法人日本LCA推進機構		理事長
2	副委員長	古賀 剛志	特定非営利活動法人 エコデザイン推進機構		理事
3	副委員長	伊吹 隆直	一般社団法人日本鉄鋼連盟	技術・環境部	部長
4	副委員長	深井 泰雄	三菱電機株式会社	環境推進本部	専任
5	委員	足立 芳寛	東京工科大学		客員教授
6	委員	平尾 雅彦	東京大学大学院工学系研究科	化学システム工学専攻	教授
7	委員	國部 克彦	神戸大学大学院	経営学研究科	教授
8	委員	松野 泰也	千葉大学大学院工学研究院	都市環境システムコース	教授
9	委員	伊坪 徳宏	東京都市大学	環境学部 環境マネジメント学科	教授
10	委員	水谷 広	社会地球化学研究所		主任研究員
11	委員	目黒 雅也	一般社団法人日本自動車工業会	環境統括部	統括部長
12	委員	深野 行義	一般社団法人日本ガス協会	企画ユニット	環境部長
13	委員	中原 靖	一般社団法人日本自動車部品工業会	技術部	次長
14	委員	並河 治	一般社団法人電子情報技術産業協会	事業推進戦略本部 技術戦略部	環境推進専任部長
15	委員	祖田 敏弘	一般社団法人日本化学工業協会	技術部	部長
16	委員	濱田 信明	一般社団法人ビジネス機械・情報システム産業協会	環境部	部長
17	委員	井上 謙	一般社団法人日本産業機械工業会	産業機械第一部 兼 技術部	部長
18	委員	渡辺 博司	一般社団法人日本建設業連合会		常務執行役
19	委員	細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門	リーダー
20	委員	松浦 弘之	一般社団法人日本ガス石油機器工業会		事務局長
21	委員	中野 直男	一般社団法人日本アルミニウム協会		参与 環境・安全部門長
22	委員	杉戸 豊	石油化学工業協会	業務部	課長
23	委員	三浦 安史	石油連盟	安全管理部	部長
24	委員	田淵 浩	電気事業連合会	立地環境部	副部長
25	委員	大石 美奈子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員 協会		副会長
26	委員	村上 順二	株式会社日立製作所	サステナビリティ推進本部 環境部	部長代理
27	委員	小林 由典	株式会社東芝	技術・生産統括部 環境推進室	参事
28	委員	石川 鉄二	富士通株式会社	総務・サステナビリティ推進本部 環境 デザイン部	部長
29	委員	大淵 善道	キヤノン株式会社	環境統括センター 環境推進部	製品環境推進課長
30	委員	田中 百合子	日本電信電話株式会社	ネットワーク基盤技術研究所 環境基盤プロジェクト 環境アセスメン ト基盤グループ	グループリーダー
31	委員	梶川 文博	経済産業省 産業技術環境局	環境経済室	室長

令和2年度LCA日本フォーラム LCA/DB委員会

		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	松野 泰也	千葉大学大学院工学研究院	都市環境システムコース	教授
2	副委員長	磯原 豊司雄	日本製鉄株式会社	技術総括部	上席主幹
3	委員	原田 幸明	国立研究開発法人物質・材料研究機構	元素戦略材料センター	特命研究員
4	委員	田原 聖隆	国立研究開発法人産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 研究戦略部 連携主幹 安全科学研究部門 IDEA ラボ	ラボ長
5	委員	醍醐 市朗	東京大学大学院工学系研究科	マテリアル工学専攻	特任准教授
6	委員	祖田 敏弘	一般社団法人日本化学工業協会	技術部	部長
7	委員	齋藤 潔	一般社団法人日本電機工業会	環境部	担当次長
8	委員	細川 浩之	一般社団法人セメント協会	生産・環境部門	リーダー
9	委員	棚橋 昭	株式会社デンソー	安全衛生環境部	部長
10	委員	金子 一彦	株式会社荏原製作所	内部統制・リスク管理統括部 環境推進課	課長
11	委員	高橋 拓二	一般社団法人日本ガス協会	企画ユニット 地球環境グループ	グループマネジャー
12	委員	小安 克幸	一般社団法人日本アルミニウム協会	業務・国際交流担当	主査
13	委員	岩切 繁樹	塩ビ工業・環境協会	環境広報部	部長
14	委員	佐々木 啓	日本鋳業協会	技術部	次長
15	委員	柳 善博	日鉄ステンレス株式会社	製造本部 安全環境防災部長 光製 造所 安全環境防災部長	部長
16	委員	瀧ヶ崎 薫	前田建設工業株式会社	技術研究所	上席研究員

令和2年度LCA日本フォーラム情報企画委員会

(順不同・敬称略)

		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	伊坪 徳宏	東京都市大学	環境学部 環境マネジメント学科	教授
2	委員	菊池 康紀	東京大学	未来ビジョン研究センター	准教授
3	委員	和泉 昭宏	一般社団法人プラスチック循環利用協会	調査研究部	環境影響評価部長
4	委員	大橋 憲司	株式会社資生堂 (日本LCA学会理事 企画委員会委員長)	社会価値創造本部 サステナブル環 境室	シニアスペシャリスト(環境)
5	委員	並河 治	一般社団法人電子情報技術産業協会	事業推進戦略本部 技術戦略部	環境推進専任部長
6	委員	木村 祐一	株式会社リコー	環境推進本部 社会環境室 企画グループ	スペシャリスト
7	委員	古米 健治	旭化成株式会社	環境安全部 地球環境対策推進グ ループ	グループ長
9	委員	柴田 あゆみ	大日本印刷株式会社	包装事業部 IPC製品開発本部 開 発製品拡散推進部 価値拡大チーム	
10	委員	小松 郁夫	東洋製罐グループホールディングス株式会社	環境部	ジェネラルマネージャー

令和2年度 LCA日本フォーラム表彰選考委員会

(順不同・敬称略)

No		氏名	所属・役職	
1	委員長	足立 芳寛	東京工科大学	客員教授
2	副委員長	岡村 隆吉	太平洋セメント株式会社	常務執行役員
3	副委員長	内山 洋司	一般社団法人日本エレクトロヒートセンター 筑波大学	代表理事 会長 名誉教授
4	委員	長谷川 雅巳	一般社団法人日本経済団体連合会	環境エネルギー本部長
5	委員	國部 克彦	神戸大学大学院	経営学研究科 教授
6	委員	四竈 廣幸	日刊工業新聞社	取締役 編集局長
7	委員	大石 美奈子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会	副会長
8	委員	堂脇 清志	東京理科大学	理工学部 経営工学科 教授
9	委員	梶川 文博	経済産業省 産業技術環境局	環境経済室 室長

令和2年度 LCA日本フォーラム表彰選考ワーキンググループ

(順不同・敬称略)

No		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	成田 暢彦	愛知学院大学 (前 名古屋産業大学 学部長・教授)	総合政策学部	非常勤講師
2	委員	中寫 道靖	関西大学	商学部	教授
3	委員	宇郷 良介	湘南工科大学	工学部 人間環境学科	教授
4	委員	芝池 成人	東京工科大学	工学部 機械工学科	教授
5	委員	玄地 裕	国立研究開発法人産業技術総合研究所	安全科学研究部門	副研究部門長
6	委員	根村 玲子	公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサル タント・相談員協会		環境委員会 副委員長
7	委員	青木 良輔	Office RECHO (元 一般社団法人産業環境管理協会 技術参与)		

令和2年度LCA日本フォーラム JLCA-DB海外対応WG

(順不同・敬称略)

		氏名	組織名	所属	役職
1	委員長	齋藤 潔	一般社団法人日本電機工業会	環境部	担当次長
2	委員	磯原 豊司雄	日本製鉄株式会社	技術総括部	上席主幹
3	委員	棚橋 昭	株式会社デンソー	安全衛生環境部	部長
4	委員	横山 亮	TDK株式会社	サステナビリティ推進本部 安全環境 グループ	課長
5	委員	田原 聖隆	国立研究開発法人産業技術総合研究所	エネルギー・環境領域 研究戦略部 連携主幹 安全科学研究部門 IDEA ラボ	ラボ長
6	委員	古島 康	みずほ情報総研株式会社	環境エネルギー第2部 環境エネルギー政策チーム	チーフコンサルタント
7	委員	正嶋 宏一	TCO2株式会社		代表取締役

LCA日本フォーラム規約

(名称)

第1条 本会は、LCA日本フォーラム（以下「フォーラム」という。）と称する。

(目的)

第2条 フォーラムは、我が国におけるLCA情報センターの役割を果たすことを目的として、経済産業省プロジェクトとして構築されたLCAデータベース（以下、「データベース」という。）の管理運営を行うとともに、学際的、業際的視点に立ち、ライフサイクルアセスメント（以下「LCA」という。）の研究の成果および情報の集積、LCA関係者間の交流促進、並びにLCAの啓発・普及活動を推進することとする。

(事業活動)

第3条 フォーラムは、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1) LCAデータベースの維持管理の運営
- (2) 会員へのLCA関連情報提供
- (3) 会員間の交流活動としてのセミナー等の開催および国際交流の実施
- (4) LCA研究の場の提供およびLCA標準化への貢献
- (5) 前各号のほか、目的達成に必要な事業

(会員)

第4条 フォーラムの会員は、工業会Ⅰ会員、工業会Ⅱ会員、工業会Ⅲ会員、団体等会員、学術組織会員、優先企業会員、工業会Ⅱ登録企業会員、一般企業会員、大学研究室等会員および個人会員とする。

- 2 工業会Ⅰ会員は、データベース構築に協力した工業会であって、基本経費部分に協力し、利用経費部分については工業会会員企業の自由意思に任せる工業会。
- 3 工業会Ⅱ会員は、データベース構築に協力した工業会であって、基本経費部分に協力するとともに、当該工業会会員企業のデータベース利用経費部分について工業会として協力する工業会。
- 4 工業会Ⅲ会員は、データベース構築に協力した工業会の内、年間事業規模が別に定める額以下の工業会であって、基本経費部分に協力する工業会。
- 5 団体等会員は、データベース構築に参画しなかった工業会、国公私立の研究機関等であって、基本経費部分に協力するとともに、自らのLCA活動としてデータベース利用を行う組織。
- 6 学術組織会員は、フォーラムの目的および活動に賛同し、基本経費部分に協力する組織。
- 7 優先企業会員は、工業会Ⅰ会員の会員企業であって、データベース利用を行う企業。
- 8 工業会Ⅱ登録企業会員は、工業会Ⅱ会員により登録された企業であって、データベース利用を行う企業。
- 9 一般企業会員は、工業会Ⅰ会員および同Ⅱ会員いずれの工業会の会員企業でなく、基本経費部分に協力するとともにデータベース利用を行う企業。
- 10 大学研究室等会員は、大学の研究室およびそれに準じるグループ又は非営利組織であって、基本経費部分に協力するとともに、自らのLCA活動としてデータベース利用を行う組織。
- 11 個人会員は、いずれの組織に属さない個人であって、基本経費部分に協力するとともに、データベース利用を行う者。

(会費)

第5条 会員は、総会において別に定める会費を納入しなければならない。

(入退会)

第6条 フォーラムの会員になろうとする者は、別に定める入会申込書を会長に提出し、運営委員会の承認を得なければならない。

- 2 会員がフォーラムを退会するときは、別に定める退会届を会長に提出しなければならない。

3 会員が次の各号の一つに該当するときは、退会したものとします。

- (1) 法人又は団体が解散又は破産したとき。
 - (2) 死亡又は失踪宣告を受けたとき。
 - (3) 会費を納入せず、督促後6ヶ月を経ても納入しないとき。
- (除名)

第7条 会員が別に定めるLCAデータベース運用規則又は会費規則に違反したときは、運営委員会の3分の2以上の議決をもって除名することができる。

(会長、副会長および監事)

第8条 フォーラムに次の役員を置く。

- (1) 会長1名および副会長若干名
 - (2) 監事2名
- 2 会長は、フォーラムを代表し、会務を統轄する。
 - 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき又は会長が欠けたときはその職務を代行する。
 - 4 監事は、フォーラムの収支決算書の監査を行う。
 - 5 会長、副会長および監事は、総会において選任する。
 - 6 会長、副会長および監事の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(総会)

第9条 総会は会員をもって構成する。

- 2 総会は、会長、副会長および監事の選任、事業計画、予算・決算の承認、その他重要事項を審議し、決定する。
- 3 総会は、毎年1回以上開催する。
- 4 総会は、構成員の2分の1以上の出席をもって構成し、出席者の過半数の同意で議決するものとする。

(運営委員会)

第10条 フォーラムに運営委員会を置き、次の者をもって構成する。

- (1) 委員長 1名
 - (2) 副委員長 1名
 - (3) 委員 20名程度
- 2 運営委員会の委員長、副委員長および委員は、会員の内から会長が選任する。
 - 3 運営委員会は、フォーラムの活動に関し必要な事項を処理し、委員会に付議する事項を審議する。
 - 4 運営委員会は、運営委員長が必要と認めた場合開催する。
 - 5 第8条第6項の規定およびただし書きは、運営委員会委員長、副委員長および委員の任期に準用する。
 - 6 第9条第4項の規定は、運営委員会の定足数及び議決に準用する。

(部会および委員会)

第11条 運営委員会の議決により、フォーラムに専門部会および専門委員会を置くことができる。

(事務局)

第12条 フォーラムの事務局は、社団法人産業環境管理協会に置く。

(規約の改正)

第13条 本規約の改正は、総会の議決により行う。

附 則

1. この規約は、平成7年10月25日より施行する。
2. この規約の改正は、平成16年4月1日より施行する。
3. この規約の改正は、平成17年4月1日より施行する。